

# 学校評価書

総社市立総社小学校  
校長 片岡 正喜  
(公 印 省 略)

## 1 自己評価

### 1 心の教育の充実

① 道徳教育，人権教育，だれもが行きたくなる学校づくりの取組を充実することにより，児童が気持ちのよいあいさつや思いやりの心を生活の中で実践することができるようにする。

- ・毎月，品格教育のテーマと関連した価値について道徳の授業を行った。道徳教育推進教師が示す指導のポイントや内容項目の扱い，日常生活へのつなぎ方を参考に児童の実態に合わせた道徳の授業を各クラスで行ったり，道徳の授業公開を参観日等に行ったりすることにより道徳教育の充実に努めることができた。また，特別な教科道徳の指導法や評価について道徳教育推進教師が校内研修を行った。

- ・6月の「いじめについて考える週間」や12月の「校内人権週間」等を中心に人権標語や人権作文の作成に取り組むとともに一人一人を大切にを合い言葉に人権学習等に取り組むことができた。

- ・ピア・サポートを異学年（兄弟学年や縦割り班），同学年，異校種間（幼稚園，保育園，中学校，高校）での交流の場を意図的・計画的に設けることや縦割り班活動としての清掃や遊び等を通して思いやりの心を育むことができた。

「友達への優しさ」のアンケート結果は，児童94%，保護者96%，教職員95%と基準を達成していた。児童の心の教育を今後も引き続き行っていきたい。

- ・「すきだ総社小学校」の「す」進んであいさつを重点目標とし，あいさつを毎月第一週の生活目標に掲げ，継続して指導を行うとともに総社小あいさつ目標「大きな声で，すすんで，顔を見て」の下に，計画委員会や生活委員会，6年生ボランティアによるあいさつ運動の取組を行った。また，地域の方に「あいさつボランティア」の協力をお願いし，中庭で児童を温かいあいさつで迎えていただいた。さらには，総社東中学校ブロックとしてもあいさつ運動を進め，今年度も新たにあいさつ幟を作成し校門に設置した。その結果，あいさつが進んでできる子が増えてきている。あいさつは，人間関係を築くための基礎基本である。児童にきちんと身に付くように，今後も強化週間を設けたり，SELの充実を図ったりとさらに工夫しながら取り組んでいきたい。

「進んであいさつ」のアンケート結果は，児童92%，保護者82%，教職員95%であった。児童が家庭や地域でもあいさつができるようにPTAと連携して声掛けを行っていきたい。

- ・いじめ防止として児童誰もが活躍できる機会を作ったり児童同士のつながりを強める活動を設ける取組を行った。学習時に協同学習やグループ・ペア活動を積極的に取り入れたり，発表の機会を意図的に増やしたりすることで，授業の中で児童が活躍できたりつながりを強めたりする機会を設定した。また，計画的な縦割り活動（縦割り掃除やなかよし遊び等）やピア・サポート活動により，学年を超えた児童同士の関係づくりを進めることができた。3学期の児童会の大きな行事である総小フェスティバルを通して縦割

り班での人間関係を深めることができた。

「活躍できる機会」のアンケート結果は、保護者92%、教職員95%であった。来年度に向けてリーダーの育成や児童が輝く取組を行っていききたい。

## 2 健康・体力づくり

- ② 健康教育・特別活動を充実することにより、児童が基本的な生活習慣を身に付けるとともに目標を持って主体的に体力作りに取り組み、最後まで粘り強く頑張る心を育てる。

特に清掃を黙って時間いっぱい取り組めるようにする。

- ・今年度も基本的な生活習慣の中で特に、重点として睡眠とメディアコントロールの2項目を取り上げ、総社東中学校のテスト週間、夏季・冬季休業と年7回「メディアコントロール週間」に取り組んだ。保健委員会によるお昼の放送や早寝についてのアンケート、PTA教育講演会「メディアとの上手な関わり方」を行った。また、学校保健委員会日より、保健だより等を発行して保護者の啓発と連携を図った。その結果、児童にはメディアのルールを設定して守ろうと努力する児童の姿が見られるようになった。

「メディアコントロール」のアンケート結果は、児童74%、保護者74%、「早寝睡眠」のアンケート結果は児童73%、保護者78%であり、基本的な生活習慣の定着を目指したアンケート結果では教職員89%であった。児童にメディアをコントロールする力を身に付けさせることの大切さを継続して保護者に啓発し、今後も家庭との連携を図りながら取り組みを進めたい。また、学級指導にメディアや睡眠専門の外部講師を招聘する等指導の工夫も行いたい。

- ・運動会や学習発表会、児童会活動等全ての教育活動において、児童の実態に応じた目標を持つことができるようにし、活動後は振り返りを行うようにした。児童にクラスや自分の目標に挑戦させ、達成感を味わわせることができた。
- ・「すきだ総社小学校」の「だ」黙って掃除に今年度から取り組んだ。教職員はもとより、児童会が主体的となって「ピア・サポート週間」と「無言週間」を設けて取り組み、成果が表れてきている。

「黙って掃除」のアンケート結果は、児童92%、教職員88%であった。教員が率先垂範することで、児童の意識を高めたい。新校舎での生活を前に、今後も自分たちの学校を愛し、一生懸命掃除に取り組む児童を育てていきたい。

## 3 確かな学力の向上

- ③ 特別支援教育の充実を図るとともに、児童が主体的・対話的で深い学びを実践し基礎学力を身に付けることができるようにする。

- ・通常学級における特別支援の視点を取り入れた学習環境や授業づくりに取り組むとともに協同学習を教科の目標を達成するための有効な手段として効果的に取り入れた授業改善により、友達と積極的に関わりながら進んで学習に取り組むことができるようになってきている。

- ・今年度も算数科を研究教科とし、全ての教員が研究授業を行うとともに、講師を招聘して実践研究を進めた。また、校内研究会を総社東中学校ブロックの学力向上研修として位置づけて開催し、他校からも多くの先生が参加した。さらに、落ち着いた学習環境の

要である授業規律，自主学習についても全職員で 共通理解のもとに取り組むことができた。

- ・朝学習の時間には基礎学力，総小チャレンジタイムには表現力や思考力を育成する問題に取り組んだ。また，朝学習や総小チャレンジタイムには，学校支援ボランティアの協力を得て担任と複数で指導に当たることができた。その結果，4月に行われた6年生対象の全国学力学習状況調査では，平均正答率が全国平均を上回り，これまでの取組の成果が見られた。

「学習意欲」のアンケート結果は，児童89%，保護者85%，教職員91%，「授業の分かりやすさ」のアンケート結果は，児童93%，保護者87%，教職員92%であった。

しかし，「基礎基本の定着 80点以上80%以上」のアンケートの結果は，昨年度よりは向上したが教職員74%にとどまった。今後も個々の児童の基礎基本の定着に向けて，教員の共通理解に基づいた徹底した指導が必要である。

#### ④ 生活科，社会科，総合的な学習の時間の充実により社会参画力を培う。

- ・生活科や社会科，総合的な学習における地域学習の充実や地域の外部講師を招いての本物に出会う授業等の取組を通して，地域を知り，地域を学ぶ学習には成果があった。また，品格教育10月のテーマ「ふるさと愛」のもとに特別の教科道德の授業を通してふるさと愛について考えるとともに地域のお祭りなどの行事に進んで参加し地域のよさについて考える機会とした。

#### ⑤ 靴やロッカー等の整頓に心掛け学習環境を整えるとともに家庭学習や読書の習慣を定着させる。

- ・「すきだ総社小学校」の「き」きちんと整頓を掲げ，落ち着いた学習環境を整えるために整頓を重点項目として取り組んだ。教室の机やロッカーはもとより，特に心を整えることを目指して靴箱の靴の整頓に取り組んだ。靴の入れ方を示した写真を掲示し日々児童への声掛けを行った。

「靴の整頓」のアンケート結果は，児童84%，保護者69%，教職員73%であった。今後も保護者や児童へ「靴そろえ」の意義を伝え，整頓の重点週間を設けるなど工夫して定着を図りたい。

- ・家庭学習については，「学年×10分+10分」を目標に日々の家庭学習の内容や量を学年で共通理解し指導してきた。特に，自主学習のよい取組を「ナイスノート」として紹介して奨励してきた。「家庭学習」のアンケート結果は，児童88%，保護者75%，教職員77%であった。家庭との連携を図る手立てを工夫する必要がある。

## 4 開かれた学校づくり

#### ⑥ 各種の便り，ホームページの更新，学校評価，学校公開等により，積極的に 情報を発信する。

- ・校長室便り，学校便り，学年便り，学級便り，図書便り，保健便り，学校保健委員会便り等をタイムリーに発行するとともに，ホームページの更新に努め，学校からの積極的な情報発信に努めてきた。特に校舎改修工事関係は，玄関に工事関係のコーナーを設置したり，校長室便りに掲載したりするなど保護者，地域への情報提供に努めた。また，

学校行事や学習活動を積極的に公開し、保護者や地域の方々の理解と協力を得るように努めた。

「情報発信」のアンケート結果は、保護者90%、教職員74%であった。メールの活用をさらに進めるとともに情報の受け手を意識した便りやホームページの作成を心掛け、双方向の情報発信にしていきたい。

- ・いじめはどこでも起こりうるというスタンスのもとにアンテナを高くするとともに教育相談やアンケートにより早期発見に努め、全教職員で共通理解を行い家庭と連携を図りながら早期解決してきた。「いじめの対応」についてのアンケート結果は、保護者79%、教職員94%であった。今後も早期発見、早期解決に向けて全教職員共通理解のもとに取り組んでいきたい。

⑦ きらめきEASTの幼稚園、小・中学校や家庭・地域、関係機関との連携を深め、児童の安全、健やかな成長を図る。

- ・今年度は特に、下校時の児童の安全を確保するため、各地域の見守りボランティアの協力を依頼した。地域づくり協議会の全面的な協力もあり、見守り体制が整ってきている。登下校以外にも、あいさつボランティア、学習ボランティア等学校ボランティアに登録して下さる保護者・地域の方が大幅に増加している。今後も地域の協力を得ながら児童の安全や健やかな成長を見守っていきたい。

「登下校の安全」のアンケート結果は、保護者95%、教職員98%で基準を達成した。

## 2 学校関係者評価者名

井上 憲司 (有識者)	萱原 潤 (地域住民)
田中 真秀 (有識者)	三宅 啓介 (PTA会長)
加藤 隆三 (主任児童委員)	高北 博文 (PTA副会長)
宮本由里子 (地域住民)	秋山由美子 (PTA副会長)

## 3 学校関係者評価

### 1 心の教育の充実

・挨拶といったマナーは短期間でできるものではない。取組の継続により結果も出ているので、良い取組をしていると自信を持って引き続き続けていって欲しい。

・ピアサポートが根付いたことにより、友達の考えや存在を尊重しながら共に学び学校生活を送る風土が形成されてきた。

・児童1人1人が活躍できる機会をこれからもつくってほしい。

### 2. 健康・体力づくり

・メディアコントロールについての考え方には個人によって差がある。家庭に投げかけてしまうとルール構築が難しい。学校と家庭が話し合っルール構築をして欲しい。

・生活習慣は、家庭と地域の連携によって構築できるものである。児童の将来を見据えた指導をおこなってほしい。

### 3. 確かな学力の向上

・個別指導が充実していることによって、学習習慣が定着しているように見える。

・授業の工夫がなされ、基礎基本の定着も図る授業が行われていることから、総社小学校全体の学力も向上していることは大変評価できる。児童が「学ぶ意欲」を継続して持ち続けるような取組を継続してほしい。

#### 4. 開かれた学校づくり

- ・教職員の熱心で献身的な取り組みに敬意を表すものの、教職員の心身の健康の保持・増進に努めてほしい。
- ・学校ボランティアの方々に積極的に学校に関わってもらうことはとても良いことである。

#### 5. 設置者等による学校への支援

・児童が毎日楽しく安心して学校に行けるのは先生方の指導の成果である。先生方の健康の維持、全ての児童が一人残らず学習に取り組む環境づくりの一環として、教諭、支援員等の人的配置等の支援をお願いしたい。

### 4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

本年度の成果と課題，学校関係者評価等を踏まえて，旧校舎解体工事の進行する環境下での学校経営目標を目指す。

- 1 心の教育の充実
- 2 健康・体力づくり
- 3 確かな学力の向上
- 4 開かれた学校づくり
- 5 校舎改築工事
- 6 働き方改革